

聖霊降臨後第2主日特禱（特定5）

全能の神よ、どうかこの世界がみ摂理のもとに安らかに治められ、主の公会がいつも喜びに溢れ、信頼と穏やかな心をもって、あなたに仕えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**

旧約聖書 ホセア書 5章15－6章6節

5:15 私は行って、自分の場所に帰っていよう。彼らが罪を認めてわが顔を尋ね求め、苦境にあって私を探し求めるときまで。

1 さあ、我々は主のもとに帰ろう。主は我々を引き裂いたが、癒やし我々を打たれたが、包んでくださる。2 主は二日の後に我々を生き返らせ三日目に起き上がらせてくださる。我々は主の前に生きる。3 我々は知ろう。主を知ることが切に求めよう。主は曙の光のように必ず現れ雨のように我々を訪れる。地を潤す春の雨のように。4 エフライムよ、私はあなたに何をなすべきか。ユダよ、あなたに何をなすべきか。あなたがたの慈しみは朝の霧はかなく消える露のようだ。5 それゆえ、私は預言者たちによって切り倒し私の口の言葉によって彼らを打ち殺す。あなたの裁きは光のように現れる。6 私が喜ぶのは慈しみであっていけにえではない。神を知ることであって焼き尽くすいけにえではない。

詩 編 第50編7－15

- 7 「わたしの民よ、聞け。わたしはお前に語る // イスラエルよ、わたしはお前を戒めよう。わたしは神、お前の神
- 8 わたしが責めるのは、いけにえのためではない // お前の燔祭は、いつもわたしの前にある
- 9 わたしはお前の家の若い雄牛を // 囲いの中の雄山羊を求めはしない
- 10 森の生き物、山の獣 // すべてはわたしのもの
- 11 空を飛ぶすべての鳥 // 野原を駆けるものはわたしのもの
- 12 わたしが飢えることがあろうか、お前に求めることがありえようか // 世界に満ちるすべてのもの、それはわたしのもの
- 13 わたしが雄牛の肉を食べ // 雄山羊の血を飲むだろうか
- 14 いけにえとして感謝を献げ // お前の立てた誓いを果たせ
- 15 苦悩の日にわたしを呼び求めよ // わたしはお前を救い、お前はわたしをたたえる」

使徒書 ローマの信徒への手紙 4章13－18節

4:13 世界の相続人となるという約束が、アブラハムとその子孫に対してなされたのは、律法によるのではなく、信仰の義によるのです。14 もし律法に頼る者が相続人であるとするなら、信仰は空しくなり、約束は無効になってしまいます。15 律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違反もありません。16 従って、相続人となることは、信仰によるのです。こうして、恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです。アブラハムは、神の前で、私たちすべての者の父であって、17 「私はあなたを多くの国民の父とした」と書いてあるとおりです。彼はこの神、すなわち、死者を生かし、無から有を呼び出される神を信じたのです。18 彼は、望みえないのに望みを抱いて信じ、その結果、多くの国民の父となりました。「あなたの子孫はこのようになる」と言われているとおりです。

福音書 マタイによる福音書 9章9－13節

9:9 イエスは、そこから進んで行き、マタイと言う人が収税所に座っているのを見て、「私に従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。10 イエスが家で食事の席に着いておられたときのことである。そこに、徴税人や罪人が大勢来て、イエスや弟子たちと同席していた。11 ファリサイ派の人々はこれを見て、弟子たちに、「なぜ、あなたがたの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。12 イエスはこれを聞いて言われた。「医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。13 『私が求めるのは慈しみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」